

平成23年度 補助事業評価（事後評価）

畑地帯総合整備事業

さ ろ ま と う ぶ
佐呂間東部地区

【基礎資料】

平成24年2月

【事業の概要】

事業名 : 畑地帯総合整備事業
総事業費 : 4,526 百万円
受益面積 : 1,451 h a
受益者数 : 105 戸
工期 : 平成7年度から平成17年度まで
関係市町村 : 常呂郡佐呂間町
主要工事 : 農道 10.4 km
区画整理 19 h a
暗渠排水 873 h a
土層改良 1,054 h a
集落防災安全施設 3 基



写真① 農道整備路線



写真② 区画整理施工状況



写真③ 暗渠排水施工状況



写真④ 集落防災安全施設整備状況

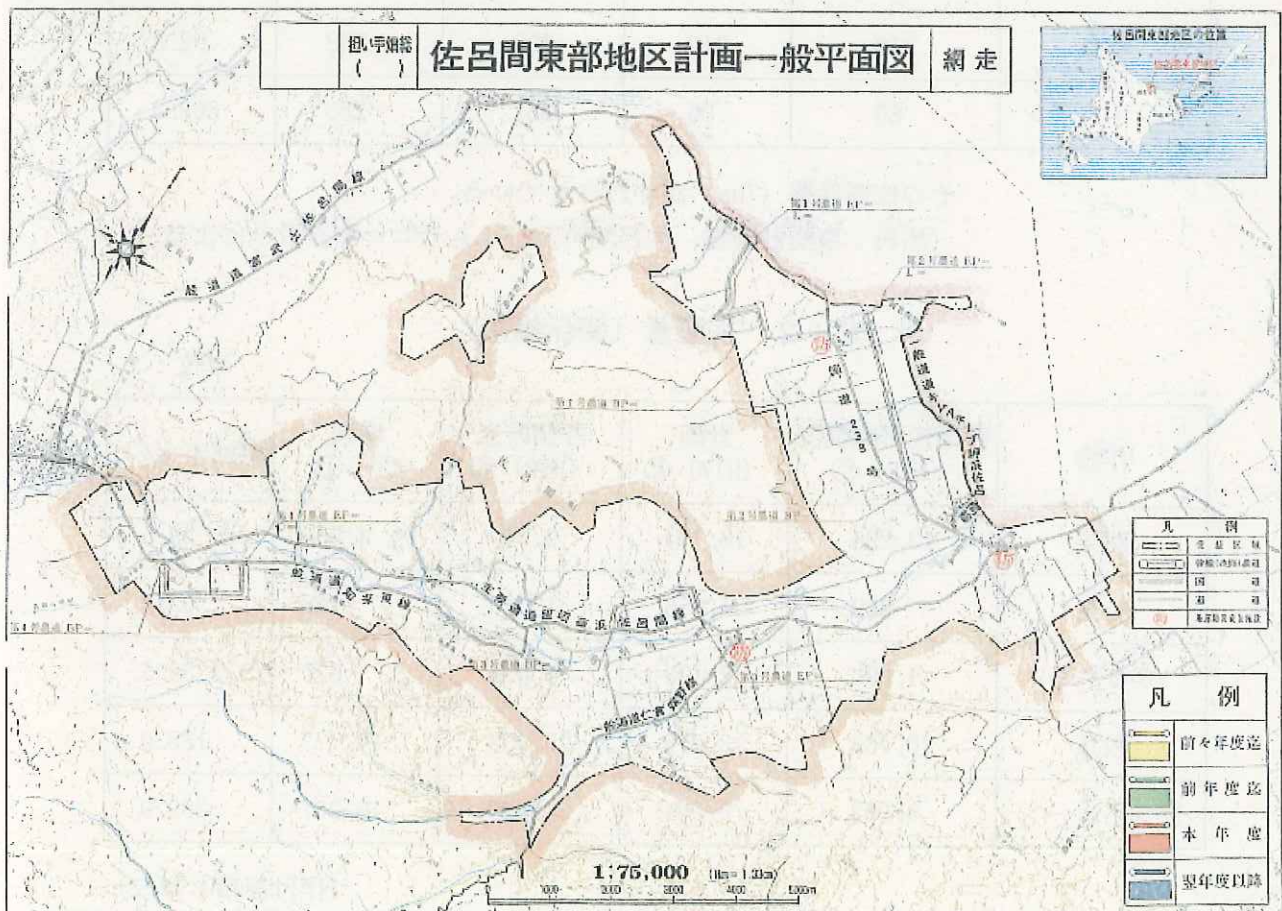
【事業の背景】

佐呂間町は、北海道のオホーツク海側、オホーツク総合振興局管内のほぼ中央部に位置し、東に常呂町、西に留辺蘂町、生田原町、湧別町、南に北見市が接し、北は一帯が日本で3番目の大きさを誇る「サロマ湖」に面している。天北山系の山々を背景に東西に長く延び、南から北に傾斜した丘陵地帯であり、中央を流れる佐呂間別川はサロマ湖へと注ぎ、流域一帯に肥沃な大地が広がっている。気候は冬期間の寒さは厳しいが、夏は涼しく、年間を通じて比較的穏やかであり、年間日照時間は日本でも有数の高い地域である。

作付体系は、小麦、甜菜、馬鈴薯の畑作3品を中心とした輪作体系に加え、最近のかぼちゃや飼料作物の作付を踏まえた複合的な農業体系を形成している。

本地区は、大半のは場の下層が堅密で透水性が低く排水性が悪い土壌のため、作物生産に支障をきたしていた。また、農道が未整備であり農作業機械の大型化に伴い農産物の搬出や通作に支障をきたしていた。よって暗渠排水、土層改良、農道等の生産基盤整備を総合的に実施し、経営規模の拡大や生産性の向上を図ることで農地利用の流動化を促進するために本事業を実施した。

【位置図】



ア 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

1 農産物の生産の増加

暗渠排水及び土層改良の整備により甜菜、小麦等の作付を増加させる計画であったが、近年の飼料価格の高騰により牧草、デントコーンの作付面積が増加している（表－１）。

牧草、デントコーンの作付面積の増加に伴い、生産量、生産額も増加している。また、暗渠排水等の整備により単収の増加が図られており、小麦についても生産量、生産額が増加している（表－２、表－３）。

表－１ 作物面積（関係集落）

単位：ha

作物	計画変更時現況 (H15) ①	計画 (H17) ②	評価時点 (H22) ③	増減 ③－①	増減率 (%)
甜菜	274	312	155	△119	△43.4
小麦	274	312	272	△ 2	△ 0.7
かぼちゃ	118	118	58	△ 60	△50.8
牧草	312	312	600	288	92.3
デントコーン	86	86	352	266	309.3

その他馬鈴薯（7ha）が作付されている。

（出典：事業計画書、佐呂間町及びＪＡサロマ聞き取りによる。）

表－２ 生産量（関係集落）

単位：t

作物	計画変更時現況 (H15) ①	計画 (H17) ②	評価時点 (H22) ③	増減 ③－①	増減率 (%)
甜菜	13,296	18,774	9,360	△ 3,936	△ 29.6
小麦	862	1,156	1,010	148	0.17
かぼちゃ	1,696	2,103	1,026	△ 670	△ 39.5
牧草	10,706	13,273	25,483	14,777	138.0
デントコーン	4,233	4,991	20,440	16,207	382.9

（作付面積×単収）

表－３ 生産額（関係集落）

単位：百万円

作物	計画変更時現況 (H15) ①	計画 (H17) ②	評価時点 (H22) ③	増減 ③－①	増減率 (%)
甜菜	226	319	159	△ 67	△ 29.6
小麦	140	188	159	19	13.5
かぼちゃ	136	168	103	△ 33	△ 24.2
牧草	253	313	535	282	111.5
デントコーン	100	118	695	595	595.0

(注) 牧草、デントコーンは生乳価格に換算し算出。

(出典：事業計画書、佐呂間町及びＪＡサロマ聞き取りによる。)

【整備前】

～ほ場の乾きが遅い～



～実が小さい～



写真④ 暗渠排水未施工ほ場状況

【整備後】

～ほ場の乾きが早い～



～実が大きい～



写真⑤ 暗渠排水施工ほ場状況

2 営農経費の節減

本事業による排水改良により、農業機械の大型化が進められ、50PS以上のトラクタの導入状況では、佐呂間町全体で45%（平成2年）から84%（平成17年）、関係集落では45%（平成2年）から86%（平成17年）に増加しており、大型化により作業効率の向上や農作業の省力化が図られている。（表－4）

また、関係機関からの聴き取りにより、排水改良により農作業にかかる経費が節減されたほか、農道整備により輸送、通作にかかる走行時間が短縮されるなど、おおむね計画どおりの営農経費の節減が図られていることが確認されている。（表－5～7）

表－4 トラクタの導入状況

単位：台

		トラクター台数 (乗用型)			大型化比率 (50ps以上)
			うち50ps 未満	うち50ps 以上	
佐呂間町	事業実施前 (平成2年)	759	414	345	45%
	評価時点 (平成17年)	848	138	710	84%
関係集落	事業実施前 (平成2年)	290	160	130	45%
	評価時点 (平成22年)	250	35	215	86%

（出典：佐呂間町は農林業センサス、関係集落はJ Aサロマ資料）

表－5 労働時間(人力)の節減状況（排水改良）

単位：hr/ha

	甜菜	小麦	かぼちゃ	牧草 (乾草)	デント コーン
計画変更時現況 (平成15年)	135.7	17.7	1,897.5	21.1	22.8
計画	124.9	12.9	1,836.6	14.4	17.2

（出典：事業計画書）

表－6 機械経費の節減状況（排水改良）

単位：千円/ha

	甜菜	小麦	かぼちゃ	牧草 (乾草)	デント コーン
計画変更時現況 (平成15年)	253	148	158	162	273
計画	173	103	126	107	194

(出典：事業計画書)

表－7 農業交通稼働時間の節減状況

単位：hr

	輸送・通作
計画変更時現況 (平成15年)	6,801
計画	857
評価時点 (平成22年)	850

(出典：事業計画書)

イ 事業効果の発現状況

1 事業の目的に関する事項

本事業により暗渠排水及び土層改良を行ったことにより、小麦、かぼちゃの単収が増加するなど生産性の向上が図られている（表－8）。

表－8 作物単収の変化

単位：kg/10a

	甜菜	小麦	かぼちゃ	牧草	デント コーン
計画変更時現況 (平成15年)	4,858	315	1,435	3,428	4,928
事業後（計画）	6,023	371	1,779	4,250	5,810

(出典：事業計画書)

2 土地改良長期計画における施策と目指す成果等の確認

① 効率的かつ安定的な経営体の育成と質の高い農地利用集積

1戸当たりの経営面積は、関係集落において平成2年の12.6haから平成17年には23.1haに拡大し、経営規模20ha以上の大規模経営農家の割合についても平成2年の16%から平成17年度には65%に増加しており、経営規模の拡大が図られている（表－9）。

本地区において担い手に位置付けられている農家17戸の経営面積は、事業実施前331.5haから事業実施後528.09haと62.1%増加しており、農地流動化により利用集積が図られている（表－10）。

表－9 経営規模別農家戸数の変化（関係集落）

単位：戸

	農家 戸数	戸当 面積	経営規模						大規模化 (20ha以上、 戸数割合)
			自給的農家	～3ha	3～5ha	5～10ha	10～20ha	20ha～	
平成2年	166	12.6	5	55	13	26	40	27	16%
			3%	33%	8%	16%	24%	16%	
平成17年	92	23.1	0	4	2	4	22	60	65%
			0%	4%	2%	4%	24%	65%	

（出典：農林業センサス）

表－10 担い手の育成状況

単位：ha

	地区 面積 A	担い手等の 所有面積		担い手等への 使用収益面積		担い手等利用集積面積			H/ A
		地区内	地区外	地区内	地区外	地区内H	地区外	計	
事業実施前 (H7)	2335.90	304.88	9.20	17.47		322.35	9.20	331.55	13.8%
事業完了後 (H17)	2335.90	346.47		151.62		528.09		528.09	22.6%

（出典：農業農村活性化計画達成状況報告書）

ウ 事業により整備された施設の管理状況

本事業により整備された農道については佐呂間町において維持補修等を実施し、適切に管理されている。

エ 事業実施による環境の変化

1 生活環境

農産物の集出荷や通作などのために整備した農道は、受益者の生活道路としても利用され、生活環境の改善に寄与している。また、集落防災安全施設（防火水槽）の設置により、各集落での防火対策が図られている。



オ 社会経済情勢の変化

1 社会情勢の変化

① 産業別就業人口

産業別就業人口は各産業で減となっているが、比率については大幅な増減はみられない（表－１１）。

表－１１ 産業別就業人口の変化

単位：人、％

		第１次産業	第２次産業	第３次産業
事業実施前 (H7)	就業者数	1,463	1,025	1,585
	比率	35.9	25.2	38.9
評価時点 (H17)	就業者数	1,097	884	1,429
	比率	32.2	25.9	41.9

(出典：国勢調査)

② 農業算出額

農業産出額は、平成７年に減少したものの、平成12年以降は回復・増加傾向にある（表－１２）。

表－１２ 農業粗生産額の変化

単位：百万円

		農業粗生産額		内訳（実績値）					
		実績値	換算値	麦類	雑穀・豆類	いも類	野菜類	工芸作物	畜産
佐呂間町	H 2	7,635	9,002	908	59	82	302	717	5,324
	H 7	6,671	7,231	83	69	81	301	687	5,248
	H12	7,720	8,368	59	70	50	290	560	6,030
	H17	8,230	8,625	68	60	30	220	700	6,470

（出典：北海道農林水産統計年報）

２ 地域農業の動向

① 耕地面積

佐呂間町の耕地面積は、平成７年の7,760haから平成22年には7,530haと減少している。

② 農業就業人口

佐呂間町の農業就業人口は、平成２年の1,475人から平成22年には532人と減少し、65歳以上の割合は平成２年の22%から平成22年には28%と増加し高齢化が進んでいるが、近年、担い手への農地集積に加え、農業生産法人、コントラクターによる作業受委託の取組が進んでいる（表－１３）。

また、平成23年10月にＪＡサロマTMRセンターが始動し、平成24年夏の供給開始に向けて期待が高まっている。

表－１３ 年齢別農業就業人口の変化

単位：人

		農業就業人口					高齢化率 (65歳以上)	就業人口 減少率
			うち 39未満	うち 40～59	うち 60～64	うち 65以上		
佐呂間町	事業実施前 (H 2)	1,475	410	562	179	324	22%	
			28%	38%	12%	22%		
	完了時 (H17)	690	115	324	73	178	26%	53%
			17%	47%	10%	26%		
	評価時点 (H22)	532	94	216	73	149	28%	23%
			18%	40%	14%	28%		

（出典：農林業センサス）

③ 経営体数及び認定農業者数

経営対数は、平成17年の289経営体から平成22年には227経営体と減少しているが、農業生産法人は平成17年の11法人から平成22年の14法人と増加しており、経営体の法人化が進んでいる（表－14）。

表－14 組織形態別経営体数及び認定農業者数の変化

		経営体数（経営体）				認定 農業者 （人）
		農業生 産法人	個人 経営体	その他		
佐呂間町	完了時 （H17）	289	11	277	1	202
	評価時点 （H22）	227	14	212	1	170

（出典：経営体数は農林業センサス、認定農業者は北海道農政部調べ）

カ 今後の課題等

本事業により主要作物である牧草、デントコーンの作付面積及び生産量が増加するなど事業の効果が見られるものの、就農人口の減少及び高齢化が進展する中で、今後一層の後継者及び新規就農者の確保を図っていく必要がある。

